

神話のふるさと西日登(雲南)で ご縁を求めて

【西日登神楽社中による公演風景】

豊かな自然と環境に恵まれ、永い歴史と伝統に育まれた西日登(雲南)西日登振興会では、『和みの郷・西日登』をめざして日々自主活動に積極的に取り組んでいます。

事業活動の一つとして、文化伝承・地区活性化に取り組む中、八岐大蛇伝承のひとつとして祀られている壺神様(八口神社)を象った【壺神せんべい】と、オロチをデザインしたキャップ(帽子)を販売しています。西日登の史跡を巡り、お帰りにお土産として是非ともお買い求めください。

【オロチ伝承地・壺神せんべい】 30枚入り 450円

素材と製法にこだわった一品です。ほどよい硬さで一度食べたら癖になる味です。お土産にも最適です。

※壺神せんべいはお近くの「渡部理容院」「石田商店」でも販売しています。



【西日登オロチキャップ】 2,500円

キャップ(帽子)はしっかりとした生地を使用しています。オロチ退治伝承地でオロチをデザインに取り込んであります。白黒4タイプあります。

西日登オロチ
デザインキャップ



※好評につき、売れ切れの場合、少々お待ち頂くこともございます。



ご注文
お問い合わせ

〒699-1324 雲南市木次町西日登990-1
西日登交流センター・西日登振興会
TEL: 0854-42-1037 FAX(兼)
mail: nishih-c@bs.kkm.ne.jp



出雲の伝承／印瀬の壺神(八口神社)

所在地	島根県雲南市木次町西日登
アクセス	国道54号から国道314号を奥出雲町方面に4.5km地点 中国電力逆調整池上部に案内表示あり



■由緒

古事記によると、スサノオが八岐大蛇を退治する際、足名椎・手名椎の夫婦に『八塩折の酒をつくり、垣根を造り巡らしてそこに8つの門を設け、門ごとに棧敷を造って、醸造した酒を酒壺に入れて置いて八岐大蛇が来るのを待つべし』と命じた。その時の酒壺の1つを、この神社に祀っている。昔、この地の人がこの壺に触れた際、天がかき曇り山が鳴動して止まなくなった。そこで8本の幣と8品の供物を献じて神に祈った。すると鎮まり、村人たちは人の手に触れることを恐れ、多くの石で壺を覆い、そして玉垣で囲み注連縄を巡らした。現在も、昔のままの姿で昔のままの場所に酒壺は安置されている。隣に鎮座するのは、八岐大蛇神話に係る「八口神社」である。小さな宮であるが、須佐之男命と櫛名田姫命の夫婦神が祭神として祀られている。(婚活中の方は、念入りをお願いしてみらや！！)

☺ やくてもねえことだども！

「壺神さん」と「八口神社」はこの駐車場から4段の階段を上り鳥居を抜けて79段の階段を登った奥にあります。女性の方は、ヒールの低い靴が良いでしょう。氏子さんの努力で近年手摺りがつけられましたが雨上がりには、滑りやすいので気をつけてくださいネ！

■西日登神楽社中



西日登神楽社中は、文久元年に西日登地区の大島和市氏らを中心とする農民有志が郷の峠の神官・玉木左近氏より神楽舞を習得し、「西神楽」と称して発足しました。地元を中心に、盛んに活動を展開していたものの、昭和10年頃から終戦まで戦争の為にその活動を休止します。しかし戦後、安部顕介氏らの働きかけにより昭和21年には再び活動を再開しました。

昭和28年5月に出雲大社「昭和の大遷宮」が行われ神楽奉納を行った際、千家宮司より「出雲大社教神代神楽師」の称号及び感謝状を賜り、これにより「出雲大社教神代神楽 日登社中」とその名を改めました。以来出雲大社には毎年5月の連休には欠かさず奉納神楽を行っております。

出雲大社のみならず、靖国神社、金比羅宮など各地の神社での奉納神楽も行ったほか、東京や大阪、広島など都市での公演も行い、また平成10年には木次町の町民劇「ひと花の吹雪」にも出演し公演を行いました。近年では地元西日登小学校に神楽クラブも生まれ、後継者の育成にも力を入れております。

平成26年に社中名を「出雲大社教神代神楽 西日登神楽社中」とし、現在は下は小学生、上は80代の幅広い年代が技術の研さんに日々励んで居るところです。

ヤマタノオロチ伝説をはじめとして神話の本場である出雲の地で神楽を舞えることを誇りに思い、伝統的な出雲神楽の舞ぶりを大切にしながらも、演目終盤には激しい舞や奏楽を展開し、皆様に盛り上がりいただける出雲神楽を目指しております。